

【第一章】イケ女王子様の野糞アナニー

(ミツルギ、生徒会室にて伸びをする)

ん〜…ッ！

…さて、と。

この書類で、とりあえずは終わりかな？

悪いね後輩くん。毎日付き合ってもらっちゃって。

部活動予算の仕事は会計担当の君がいないと、どうにも円滑に進まなくてね。

生徒会の仕事も楽じゃないね、ふふふ…。

あ、そうだ。

お礼と言ってはなんだけど、なにか飲み物でも買ってあげるよ。

言っておくが、遠慮はしないでくれよ？

僕がお礼をしたいだけなんだ、だから…ね？

…うんうん。それじゃ、こんな息苦しい生徒会室はとっとと出ちゃおう。

たしか、食堂の自販機が校内で一番バリエーション豊かだったよね？

さ、早く行こう、後輩く…ッ！？

(ミツルギが生徒会室の扉を開けた途端、ファンの女子に囲まれる)

おっと…あはは、困ったな。

君たちは、僕のファンクラブの子たちだね？

うーんと、君たちとも一緒にお話したいところだけど、今は忙しくてね。

また今度にしてくれると嬉しいよ。

えーと…そうだな、明日のお昼は、君たちと一緒にご飯を食べることにするよ。

それでどうだい？

…うん、ありがとう。お利口さんな君たちのこと、大好きさ。

うん、それじゃあまた明日。

もうすぐ暗くなるから、君たちも気をつけて帰るんだよ？

(女子たちが離れていく)

…おっと、すまないね、後輩くん。

いつも、生徒会が終わるとこうやってファンクラブの子たちが押しかけてくるんだよ。

…君も知ってるだろう？

この学校的女子たちが作った、僕のファンクラブ。

生徒会長選挙が近かったし、人気取りのために公認したのはいいけれど…まさかこうなる
とは思わなかったなあ。

…それなら、キザな態度をやめたらいい？

はは、後輩くんは辛辣だなあ。

そうすることであの子たちが喜ぶのなら、僕はそれを演じるまでさ。

僕が王子様を演じてること、彼女たちが知ったら悲しむから、ヒミツにしておいてくれ
よ？

口止め料として、飲み物も一本追加するからさ。

ふふふふ…んお…ッ！？

(ミツルギ、激しい便意を催す)

んう…ッ♡

そ、そうだ…！

すまない、後輩くん。

急用を思い出してしまった。

お礼の件は、また今度にしてもらってもいいかな？

…す、すまないね。

なにか困ったことがあったら、いつでも僕を頼ってくれ。力を貸すよ。

それじゃ、またね、バイバイ…ッ！

(足早に聞き手の元を立ち去る)

(数分後、人気のない校舎裏で歩みを進めるミツルギ)

ふう～ッ、ふう～ッ♡

ここ、なら…校舎裏なら、だれも、来ないよね…？♡

ん、ううッ！！♡

(放屁)

うあ、くっさあッ…♡

ふふ、さっきはヤバかったなあ…♡

少しでも気を抜いたら、後輩くんの目の前でくっさいオナラぶちまけちゃうとこだった…

♡

んっ、うおッ！？♡

(放屁)

はひっ、や、ヤバ…ッ♡
もう出るっ、出ちゃうっ♡
早く、パンツ脱がないと…ッ♡

(脱衣)

ふーッ、ふーッ…♡
うあ、すっご…♡下着のクロッチ、マン汁でグッチョグチョ…♡
ふふ、こんなの、ファンクラブの子達には絶対に見せられないね…♡
さあて、お待ちかねの、クソ我慢オナニーの時間だあ…ッ♡
勉強のストレスも、生徒会長としてのプレッシャーも、全部まとめてブチ撒けるぞお…ッ♡

(アナルオナニー開始)

んっ、おッ♡
おひりっ、あちゅいい…ッ♡
んお、おっほ♡指とまんにゃいッ♡
ケツ穴ほじってオナラ漏らすのきもちいいッ♡
腰ッ、勝手に動くっ、ヘコつくうッ♡
みんなの前じゃ絶対見せられない、下品で不潔な僕のケツ穴オナニーッ♡
王子様とか呼ばれてッ、キザでカッコいい姿を演じてるけど、本当は、お下品で不潔な、ケツ穴狂いのド変態なんだよ…ッ！♡
んおッ！？♡

(放屁)

うあ、あはあ…♡オナラ、気持ちいい～～ッ♡
ねっとりしてて、くっさい、ムラつくニオイい…♡
すんすんっ、おほっ、たまんね…ッ♡
こんなニオイのオナラぶちまけてると知ったら、絶対ファンクラブの子たちは幻滅しちゃうッ！♡
でも、やめられないッ♡
お下品にクソ穴ほじって、ブピブピオナラぶっこくのッ、たまんないからぁッ！♡

(アナルオナニー激しく)

んお、おっほお♡ケツ穴イクッ♡

イっちゃうう～～っ！！♡

溜め込んだクソぶちまけるッ！♡クソ穴ほじりまくって、ウンコぶちまけてイクッ！！♡

カッコイイ王子様に似合わないぶっとくて下品な極太ウンコ出すぞおッ！♡

これヤバあッ♡ヤバいアクメくるっ！♡

クソアクメくるッ！♡

んお、おッ♡イクッ！♡クソひりでイッッぐう～～っ！！♡

(脱糞)

んおおおおおおおおお～ツツ♡

んおお…ほお…ツ♡

出てる…ツ♡

僕のクソデカっ、極太ウンコお…ツ♡

あはあ、すっごいくさいい…♡

こんなくっさいので校舎裏マーキングしちゃう、悪い生徒会長で、ごめんねえ…？♡

んひ、んへへ、たまんにゃい…ツ♡

はあ～っ、気持ち、いい…ツ♡

(物音が聞こえる)

んひッ！？♡

だ、誰ッ！？♡

なんでここに…ッ！

…へ？

こ…後輩くん…？

な、なんでこんな場所にいるんだい…っ？

んおっ、や、やばっ…ツ♡

おうっ、おっほお♡ウンコ止まんない…ツ♡

見られてるのにつ、クソ止めたいのにッ♡

ぶっといの、勝手にモリモリ出てきちゃうう…ッ！♡

んお、おほお～っ♡

で、でもっ、後輩くんクソひり見られるの気持ちいいッ♡

あはあ、これクセになっちゃうかもお…♡
ねえっ、後輩くんっ♡
いつから、隠れてたんだい？♡
ふふ、もしかしてえ…僕のお下品クソ穴オナニー♡ずーっと隠れて見てたのかな？♡
んお、おお…ッ！♡
んふふ…な、ならあ、もっと見てよ後輩くん♡
僕が下品にウンコひり出すところ、見て…ッ！♡
おっほお♡また、でるう…ッ！♡

(脱糞)

うあ、おひいい〜っ！？♡
ほひい…んお…♡
ケツ穴、クソで擦られてえ…きもちいい〜…っ♡
うおっ、でっけえアクメくる…ッ♡
最後の一本ぶちまけてっ、下品にケツ穴アクメキメちゃうよおッ♡
んお、おッッ、ほおおお…ッ！？♡
んっ、ほおおおおッッッ！！♡

(脱糞終了、絶頂)

はひい…♡
ふーっ、ふーっ…はへえ…っ♡
ん…あは♡すごい量…こんなに出しちゃってたんだ♡
山盛りウンコ…湯気が立って、ニオイも強烈だね…♡
ねえ、後輩くん♡
幻滅、したかな？♡
学校の王子様が、実はケツ穴狂いで、ウンコひり出すのが大好きなド変態だって知って…嫌いに、なったかな…？♡
んふふ…そんなわけ、ないよね？♡
だって君は、僕がクソひり出してるのを見て、興奮しちゃったんだから…♡
ズボンの、その膨らみ…♡
僕のクソ穴オナニーと、このでっかいウンコで興奮しちゃった、君のおちんぼ…♡
ズボン越しでも丸わかりだよ♡
…ねえ、後輩くん♡
僕の痴態に興奮してくれたのなら…一つ、お願いがあるんだ…♡

見ての通り…僕はしちゃいけないところで、露出とか、オナニーとか、ウンコぶちまけたりとか、そんなド変態なことをするのが大好きなんだ♡
理由？♡そんなのひとつしかないだろう？♡
気持ちいいからさ♡
背徳感に包まれながら味わう快感は格別で、クセになるんだよ♡
…ふふ、ドン引きしてるね♡
でも、君も僕と同類なんだよ？♡
僕のウンコで、そんなに大きくしてるんだからさ♡
…違う？♡違わないだろ？♡
君も、僕と同じド変態だ♡
だから…ド変態同士、仲良くしよう♡
君には、僕の性欲発散の手伝いをして欲しい♡
具体的に言うと、僕の変態プレイに付き合ってもらいたいんだ♡
もちろん、タダでとは言わない♡
代わりに、僕は君にオカズを提供しよう♡
オナニー動画でも、盗撮風動画でもいくらでも撮って送ってあげるし、なんなら僕との変態プレイ中におちんぼシコシコするのも許してあげる♡
お互いに性欲の発散ができる、ウィンウィンの関係…♡
…ん、ふふ…悪くは、ないだろう？♡
…ふふ、いいお返事だ♡
これからよろしくね、後輩くん♡
これは…楽しく、なりそうだ…ふふふふ…♡

【第二章】イケ女王子様の糞我慢校内散歩

(数日後)

(聞き手、生徒会室の扉を開ける)

お、来たね、後輩くん。

さすがだね、待ち合わせ時間より早い到着とは、いい心がけじゃないか。

それとも…

(囁き)

僕との変態プレイが楽しみで、約束の時間まで待てなかったのかな？♡

ふふふ…♡

(囁きここまで)

ま、そう顔を真っ赤にする必要はないよ。

僕だって楽しみすぎて…ほら♡

(スカートをたくしあげる)

白い下着にシミができちゃうほど、おまんこ濡らしちゃってるんだからね…♡

授業中に、最高のプレイを思いついたんだ♡

妄想すればするほど身体が熱くなって、おまんこがヨダレを垂らしちゃうドスケベプレイ

…♡

…ふふ、何をするのか、気になるのかい？♡

いいよ、教えてあげる…♡

でも、まずはあ…ふんッ！！♡

(放屁)

んはあ♡クッサあ♡

ふふ、どうだい？♡僕のオナラ…♡

この前嗅いだ時よりも更に強烈な、鼻が曲がりそうなニオイだろう？♡

なにせ、僕のお腹の中で三日間熟成されたオナラだからね♡

…そう、実は僕、しばらくウンコが出てなくてね♡

いわゆる、便秘ってヤツさ♡

今日は後輩くんに、それを解決してもらいたいんだ♡

(ミツルギ、浣腸を見せる)

じゃーん♡

これ、何か分かるかい？♡

…そう、浣腸だよ♡

これを僕のケツ穴にぶちゅ～って注入すれば、お腹の中にあるの、ゼーンぶドバドバ漏らしちゃうだろうね♡

でも、普通に浣腸するんじゃつまんないから～、んふふ、ゲームをしよう！♡

ドスケベな、糞我慢ゲームをね…♡

ルールを説明しよう♡

まず、僕のおしりに浣腸をした後、ヒクヒク蠢くケツ穴に…コレ♡

(ミツルギ、アナルプラグを見せる)

ぶっといアナルプラグをぶちこむ♡

これで、物理的に排便を禁止するわけだね♡

その後は、便意を堪えながら、後輩くんと一緒に生徒会室を出て、一階から屋上まで隈なく巡る♡

無事に屋上までたどり着いたらゲームクリア！♡

後はトイレに駆け込んで好きなだけブリブリしてオッケーだ♡

んふふ♡浣腸入れたあとの便意って凄いんだよ？♡

ウンコひり出すことしか、考えられなくなっちゃうんだから…♡

そんな強烈な便意を抱えながら、校舎を巡る…んふふ♡

ぜえったい、気持ちいいよ♡

放課後になってからしばらく経ってるし、校内に残ってる生徒はほとんどいないと思うけど、もちろん、誰もいないってこともないから、適度にスリルも味わえる♡

我ながら最高のゲームだと思うよ♡

思いついた時、今すぐやりたくてたまらなくなったもん♡

もちろん、途中でギブアップしたり、万が一にもアナルプラグごと糞をぶちまけちゃったりしたら、ゲームオーバー！♡

その時は罰ゲームとして…うーん、そうだな…♡

その場に、ゼーンぶお腹の中のモノをぶちまけちゃう、ってのは、どうだい？♡

廊下だろうが、教室だろうが、そこに全部ぶちまけるんだ♡

んふふ♡面白そうだろう？♡

(ミツルギ、聞き手に浣腸を渡す)

ふふ、それじゃあ早速始めようか！♡

ほおら♡僕のスカートめくって、下着脱がせてよ♡

(聞き手、ミツルギの下着を脱がせる)

ん…ふふ…デッカいケツだろう？♡

ケツ肉たぶんたぶんの、完璧な安産型のデカケツだよ♡

それに、アナルも、早く浣腸してえ…ってオネダリするみたいにヒクヒクして、トロットロに出来上がっちゃってるね…♡

ほら、早く浣腸してくれないと…ふんっ！！♡

(放屁)

ふひっ♡急かすみたいに、オナラぶっこいちゃうぞ～っ♡

ほらほら、早く早く♡

浣腸、ぶちこんでえ…っ！♡

(聞き手、浣腸を注入)

んっ…！♡

あはあ…♡おしりの中に、冷たいのが…♡

どうかな？♡全部、入ったかな？♡

ふふ、思ったより大したことなくて拍子抜けしたけど、これはこれでクセになりそ、おッ！？♡

(激しい腹痛)

(放屁)

んっ、んぎおおおッ！？♡

す、すごっ、お腹、急に痛ッ…！？♡

な、なんだこれっ、おほっ♡

んぎっ、いひいいいいっ！♡

ウンコ漏れるっ、漏れちゃうッ！！♡

後輩くんっ、早くっ、早くアナルプラグ入れてくれっ！♡このままじゃっ、漏れちゃう

っ！！♡

そ、そう、そのまま、遠慮せずに奥まで…んひっ！？♡

(アナルプラグを挿入)

んっ、ほおおおおッ！？♡

んおおお〜〜ッ！♡

おほ、んおっおおお…っ！♡

こ、これにゃんとか、耐えれそ、おひい♡

あ、ありがとお後輩くんっ♡

さあ、早いとこゲームを終わらせちゃおう？♡

じゃないと、これ、本当にヤバいから…ッ♡

さあ、行こっか、後輩くん…ん、んぐう…ッ♡

(聞き手とミツルギが生徒会室を出て歩き始める)

ふうっ、んんっ、一歩進む、だけでもっ、お腹に振動が、響いてえ♡

んぎっ！♡おほっ、ほおおっ！♡

ふうーっ…んっ、ふうう〜ッ♡

だ、大丈夫さ、後輩くん…♡

これくらい、全然…んぎっ！♡

ふう〜っ、ふうう〜ッ♡

だ、大丈夫、だからあ…はひいいんっ！♡

(放屁)

あひッ！？♡

おほっ♡おおお〜〜ッ！♡

アナルプラグの隙間から、屁が漏れちゃうう…ッ♡

んぎいッ！♡おほっ、ほおおっ！♡

はひっ、ひいんっ♡

これ、興奮、すごいィッ♡

おまんこキュンキュンしてっ、歩きながら、腰が勝手にへこついちゃううっ！♡

おほっ♡ほおっ♡

マン汁も、ポタポタ漏らして床に足跡つけちゃってるうッ♡

んぐうッ！？♡

(放屁)

(ミツルギ、壁に寄りかかる)

あふっ、はふ、はひいんっ！♡

んっ、くうう…ッ！♡

だ、大丈夫だよ、後輩くん…ちょっと休憩してただけ…ッ！♡

んっ、ぐううッ！！♡

(放屁)

ほひっ！？♡

おっ、ほおおっ！♡

んぎぎぎ…ッ♡

(ミツルギ、立ち上がって歩き始める)

あ、歩かないと…！♡

いつまで経っても、ウンコ、出せないい…ッ！♡

ふーッ、ふーッ…♡

んおおっ♡

(放屁)

(遠くから足音が聞こえてくる)

(ミツルギ、立ち止まる)

んあ…あ、あれ？

この音は、もしかして…んふふ♡

やっぱり、僕たち以外にも、まだ生徒が残ってたみたいだね…♡

(囁き)

…あ♡

あの子、僕たちに気が付いたよ♡

あの子は確か…ファンクラブの子かな？♡

僕を見つけるやいなや、こっちに向かって走ってきてるよ♡

んふふ…♡

僕のファンなら、丁寧に対応しないと、ダメだよな…？♡

(囁きここまで)

やあ、こんにち。こんな遅くまで学校に残って、なにをしてたんだい？

ふふ、忘れ物を取りに来た、か。

それはいけないね、気を付けない、とおッ♡

(腹痛)

んぐう…ッ♡

…へ？♡

ぼ、僕が、どうして、学校に残っているのかって？♡

ふふ♡僕は生徒会長だからね♡

生徒会の仕事が終わらなくて残っていたのさ♡

そこの彼は、生徒会の会計担当の後輩くんだよ♡

彼が手伝ってくれたおかげで、さっきやっと仕事が終わったところなんだ♡

んふふ…ん、ぐお…ッ♡

(囁き)

ね、ねえ、後輩くん♡

この状況、どう思う？♡

お腹はどんどん痛くなってきてるし、ちょっとでも油断するとアナルプラグの隙間から、オナラ漏れ出ちゃう…♡

興奮ヤバイよ、これえ…♡

…そうだ♡いいこと思いついた♡

ここは一つ、この子にファンサービスしてあげようかな…♡

(囁きここまで)

ん…ぐうッ！？♡

(放屁)

あ、はは…♡

聞こえちゃった、かな？♡

じ、実はさっきから、お腹の調子が良くなってね♡

今の音と、このニオイは…なかったことにしてくれると、嬉しいな♡
…ふふ、そう言ってもらえると、助かるよ♡
君はいい子だね…♡

(ミツルギ、ファンの女子に歩み寄る)

(囁き)
こんな不細工な音を聞いても僕に幻滅しなかったこと、忘れないよ♡
だから今度、君と一緒に二人きりで食事をさせてもらいたいな…？♡
(囁きここまで)

ふふ、どうかな？♡
…ありがとう、いい返事を貰えてうれしいよ♡
楽しみにしててね？
んふふ…♡
あ、それじゃあ僕たちは、この辺で♡
早くしないと、漏れて、しまうからね…ッ♡
また明日、バイバイ…ッ！！♡

(ファンの女子が二人の元を離れていく)

よ、よし、行った、ね…ッ♡
んっ、ぐううッ！！♡

(放屁)

はあ、はあ…ッ♡
あっはあ…ッ♡
気持ち、よかったあ…♡
やっちゃった、ね♡
ファンの目の前で、オナラぶっこいて、軽くイっちゃった…ッ♡

(腹痛)

んひッ！？♡
おほっ、ほおおっ！♡

あ、安心したら、また、便意があッ♡
や、やばッ♡ほんとに漏れちゃう…ッ♡
んふ、んふふ、うれしいね、後輩くん…♡
自分がつくづくド変態だって、思い知らされるよ…♡
さ、行こう♡後輩くん♡
まだまだ先は長いんだから、ね♡

(十数分後、聞き手とミツルギが校舎の階段を上る)

さ、さあて、これで二階も、終わり、かな…？♡
ん、ぐううッ！♡

(ミツルギ、その場に崩れる)
(腹痛)

おふっ♡ふうおッ！？♡
お腹の中ッ、ぎゅるぎゅるって…うあッ♡
や、やば…ッ♡これえ…っ♡
こ、ここで一旦…休憩、させてえ…ッ♡
んっ、ふううう～～ッ！！♡

(放屁)

んひッ！？♡
おほおッ♡
だめっ♡堪えきれにやいッ♡
我慢ッ、我慢んんッ！♡
んおッ！？♡

(放屁)

ほおおお～～ッ！♡
ウンコ出るっ、出るうっ♡
こ、これッ♡マジでヤバいかもお…ッ！♡
んっぎゅううう～～ッ！！♡

(放屁)

あひッ！？♡
だめッ♡だめえッ♡
はあ…ッ♡はあ…ッ♡
んおッ♡おおおッ！？♡
おっほッ♡またヤバい波来たぁッ！♡
はあーッ♡はあーッ♡
んおッ！？♡

(放屁)

ふーッ、ふーッ、あっ、あと、あとちょっと、だからッ、我慢、しにゃいと…ッ！♡
屋上まで、行ったら、クリア、だからぁッ♡

(聞き手とミツルギが校舎の階段を上る)

あはあっ、はあんっ♡
階段、一段上るたびに、ウンコ出そうになる…ッ♡
おほっ、ほおっ♡
一段、一段っ、上るたびにッ♡
ブピッ、ブピ〜ッて、何発もオナラ、でちゃう…ッ♡
んぎいつ、ひいんっ♡
はあ、はあ…ッ♡
んぐッ、ひい、ひい…ッ♡

(屋上にたどり着く)

っ、ついた、屋上…ッ♡
やった、やったぁッ♡
クリア、だよお、後輩くんッ♡
で、でもお…ッ♡
も…もう、無理、かも…ッ♡
ここから、下の階に降りてトイレに行くなんて、絶対無理ッ♡
我慢、できないいッ♡
ごめん、ごめんねえ、後輩くうんっ♡

僕、ここで…ウンコ、しちゃうね…？♡
んふ、んふふふ♡
僕、前々から妄想してたんだ♡
校舎の屋上から、下のグラウンドに向けて思いっきり糞をぶちまける、ウンコ爆撃♡
バレたら退学どころか、社会的に死んじゃうド変態プレイ、やりたかったんだ♡…ッ！♡
んひッ、ひい、ひいッ！！♡
後輩くん、止めないでくれよ？♡
君だって、僕のウンコが出るところ、見たいんだろう？♡
んは、あはあッ♡
もう出るッ♡ウンコ出るうッ♡
ほら、見ててえッ♡
僕がッ、学校の王子様がッ♡
ぶっとくてくっさあいウンコッ、下品にぶちまけちゃうところおッ！！♡
んおおお…ッ♡ぶっといアナルプラグごとッ、ぶちまけちゃうからッ！♡
んひッ、ひッ♡
生徒、いるのにッ♡
部活でグラウンド使ってる生徒も、いるのにッ！♡
下品にッ♡ブリブリッ、ぶちまけちゃうよおッ！♡
んおッ、おっ、んおおお～ッ！♡
極太生徒会長ウンコッ、屋上から、発射しちゃうよおお～～ッッ！♡
んおおおおッッ！！♡
出るッ、出るでるでるでるうう～～ッッ！♡
んおおおおお～～～ッッ！♡

(脱糞)

ほおおおお～～ッッ！！♡
出たっ、出しちゃったあッ！！♡
でっかい極太ウンコッ、グラウンドにボトボトぶちまけちゃってるよおッ♡
興奮ッ、ヤッツバあ…ッ♡
ケツ穴から、気持ちいいのが全身にイッ！♡
脳みそとけりゅッ、とけりゅうッ！！♡
神聖な校舎の屋上でッ！♡
生徒会長の僕がッ！♡
気持ちよくなるためだけにッ！♡
ぶっといウンコッ、ぶちまけちゃってるう…ッ！♡

バレたら退学確定にやのにッ♡
止まんにやいッ♡
ウンコ止まんにやいよお〜〜ッ！！♡

(グラウンドで騒ぎになり始める)

おほっ♡んおっ♡ほおお〜〜ッ♡
き、気付かれたッ♡僕のウンコッ、気付かれちゃったあッ♡
おほっ♡きもちいッ♡
ほらほらみんなあッ♡僕のウンコ、もっともっとよおく見てくれえッ♡
んおっ、おっほおッ♡
イ、イグッ♡
ウンコぶちまけながら、イググうウウウ〜〜〜ッッ！！♡

(脱糞終了)

(絶頂)

んおッ、ほお…♡
はあ、はあ…♡
んひ、んへへ、気持ち、よかったあ…♡
んああ、まだケツ穴、ヒクヒクしてるう…♡
んひい…ッ！♡

(放屁)

んふふ…♡
あ…ほら見て、後輩くん♡
下の階から、生徒たちが上がって来るよ♡
早いとこ逃げないと、大変なことになっちゃうね♡
さ、行こう♡
このことは、僕と君だけのヒミツだよ？♡
んふふふふ…♡

【第三章】イケ女王子様のこっそり密着脱糞ロッカー

(放課後、ミツルギ、聞き手の教室にやってくる)

失礼するよ。

…おっとすまない、文化祭の出し物の準備中だったかな？

あぁいや、大した用事じゃないんだ。

文化祭予算の話さ。

会計担当の彼を呼びたくってね。

…お、いたいた！

おーい、後輩くん！

(聞き手、ミツルギに気が付き歩み寄る)

んふふ♡お疲れ様♡

君のクラスの出し物は、確か…お化け屋敷、だったよね？

この進み具合だと、君一人が抜けても準備に支障はなさそうだね♡

…いいことを、思いついたんだ♡

ちょっと僕に付き合ってよ♡

(聞き手のクラスメイトに呼びかける)

ごめんねみんな、ちょっとだけ、彼を借りてもいいかい？

ありがとう！

当日のお化け屋敷、僕も楽しみにしてるよ！

準備頑張ってるね！

…それじゃ行こう、後輩くん♡

(ミツルギ、聞き手の手を引いて教室を出る)

ん？

どこへ行くんですか、って？♡

…ふふ、それは着いてからのお楽しみだよ♡

ただね、この前の、屋上からでっかいウンコを下品にぶちまけたアレ…♡

アレが、極太ウンコ爆撃事件なんて呼ばれて学校中の騒ぎになってるの、後輩くんも知ってるだろう？♡

校内の生徒や教師がその話をするのを聞く度にさ、僕…んふふ♡

(ミツルギ、聞き手の手を自身の股間に当てる)

ココ、疼いて、熱くなっちゃうんだあ…♡

それに、最近は文化祭の準備で、放課後になっても学校に残ってる生徒が多いだろう？♡

だから、放課後の僕の楽しみも中々実行できなくて…んふふ♡

性欲♡グツグツに煮詰まるほど溜まってて、もう限界なんだあ♡

だから…もう、いっそのこと♡

バレるかバレないか、限界を試してみようかなって、思ってるんだあ…♡

…んふふ♡

(ミツルギ、足を止める)

さ、着いたよ、後輩くん♡

ココがどこか、分かるよね？♡

…そう、文化祭用の資材置き場になってる、空き教室♡

(教室の中に入る)

ココにはさ、色んな物があって、その中に僕、良いものを見つけちゃったんだ♡

こーれ♡

使われてない、掃除道具を入れるロッカー♡

この中、ちょうど二人くらいなら…入れそうだよね…？♡

それで、この扉を閉めちゃえば、もう誰にも見つからない…♡

ナニかして、変に音を立てなければ…この空き教室に資材を取りに来た生徒にもきっと、見つからない…♡

ふふ♡後輩くん、もう分かっていると思うけど…僕が何をしたいか、分かる？♡

…んふ♡理解が早くて助かるよ♡

それじゃ、ね？♡ほら、一緒に…入ろう…？♡

(聞き手とミツルギ、ロッカーに入る)

んふふ♡狭いね、後輩くん♡

苦しく、ないかい？♡

ふふ♡まるで恋人同士が抱きしめ合うみたいな体勢だ♡

それに、こうして密着していると…君の息遣いも心臓の音もよく聞こえて…♡
すごく、ドキドキしちゃうね…♡
…あ♡

(教室に他の生徒が入ってくる)

(以降しばらく囁き)
ふふ♡誰か、来ちゃったね♡
さあて、ここからが本番さ♡
バレるかバレないか、ギリギリまで、やっちゃおうか…♡♡

(ミツルギ、アナルオナニー開始)

ふおおお…♡♡
外に誰かいるのに、ケツ穴ぐぼぐぼするの気持ちいい…♡♡
あ、あんまり音立てるとバレちゃうから、ゆっくり…♡♡
ん、ぬううっ、こ、興奮、するう…♡♡
んお、ほおっ♡おほっ、ほおお～…♡♡
こ、後輩くん…♡♡
こんなに、密着してるんだから…せ、せっかくだからさっ、ぼ、僕のケツ穴、弄ってよ…♡
ほら、ケツ穴、ヒクついてるだろ？♡
この中に指を入れて…くちゅくちゅってえ、掻き回して欲しいんだあ…♡
ね、おねがい♡誰かにケツ穴弄られて、自分じゃ調整できない快感味わいたいんだ♡
だから、ね…？♡
んふ♡ありがとう…♡
そ、それじゃ…そのままゆっくり、指、挿れて…♡♡

(聞き手、ミツルギのアナルを弄る)

ンオッ！？♡
おほっ、ほひい…♡♡こ、後輩くん、い、いきなり激しッ、んぎい…♡♡
す、ストップ、もうちょっとゆっくり…バレちゃう、バレちゃうから…♡♡

(アナル弄り減速)

ふ、ふうう…♡♡

お、おお…ッ♡

そ、そうそう、ゆっくり、優しくね…ッ♡

んふ、ふふ♡後輩くんの指、あったかい…♡

僕のケツの中でくちゅくちゅっ、てえ…気持ち、いいよ♡

あ、ああッ♡

い、今ちょっと、イイとこ、当たって…ッ♡

おッ、ふうおっ！？♡

(アナル弄り停止)

(放屁)

や、ヤバっ、オナラ、出ちゃった…っ！♡

ま、まずいっ、怪しんでこっち来てる…ッ！♡

ば、バレ…ッ！♡

(生徒、ロッカーの前の備品を手に取り、教室から出ていく)

…て、な、い…？♡

よ、よかつ、たあ…♡

ロッカーの近くの物、取ろうとしただけかあ…♡

(囁きここまで)

(放屁)

んひッ！？♡

あ、安心したら、ま、またオナラ出ちゃった…んふふ♡

ロッカーの中、狭いから、僕の甘い体臭とオナラのニオイが混じって…ッ♡

すごく、興奮するよ…んふふ♡

…ん、あれ？♡

…ねえ、僕の太ももに、何か硬いのが当たってるよ…♡

これ、後輩くんの、だよね？♡

ふふ、もしかして、僕のオナラのニオイ嗅いで、興奮しちゃったのかな？♡

…んふ、いいよ♡

それなら、僕の太ももで、君のおちんちん挟んであげる…♡

でも、タダで挟んであげる訳じゃないよ♡

君も、僕を気持ちよくしてくれ♡

なに、簡単なことだよ♡

君のかたあいおちんぼ♡僕のオマンコとアナルの入口に擦り付けて欲しいんだ♡

素股と太ももコキのハイブリット、という訳さ♡

そうしたらお互いに、気持ちよくなれるだろう？♡

あ、言っておくけど、間違っても入れちゃダメだよ？♡

もし入れちゃったら、この遊びも、この関係も、お終いだからね♡

…んふ♡それじゃあ、始めるよ？♡

ズボンとパンツ、脱がしてあげるね…♡

(ミツルギ、聞き手のズボンとパンツを脱がす)

…ふふ、わぁ♡後輩くんのおちんぼ、すごい反り返ってる…♡

我慢できずに先っぽからヨダレ垂らして…僕のせいでこうなっちゃったと思うと、なんだか、可愛いなあ♡

あは♡ビクビク震えて、怒ってるのかい？♡

ごめんごめん、それじゃあ、早く気持ちよくしてあげようか♡

僕のふとももをピッタリ閉じて♡

君のおちんぼを、その隙間に無理やり、ぬふぶふ～…ッ！♡

(太ももに挿入)

ふふ、どうだい？♡僕のふとももの締め付け、気持ちいいかい…？♡

…んふ♡言わなくても分かるよ♡君のがビクビク跳ねて、その快感を必死に僕に伝えてくる…♡

さ、入れただけで終わりじゃないだろう？♡

必死に腰振って、僕のオマンコとアナルに君の熱ういチンポ擦り付けて、僕のこと気持ちよくしておくれ…ッ！♡

(太ももコキ開始)

ん、おッ、ほおっ♡

おほっ、ほおお～…ッ！♡

あ、あああっ♡ す、すごい…っ！♡

後輩くんのチンポっ、あつつう…っ♡

カリもこんなに膨らんでッ、段差がっ、オマンコとアナル刺激して…っ♡

んひ、ひいッ！♡こ、これ、気持ちよすぎるう…ッ！♡

オマンコとケツ穴キュンキュンして、お汁垂れ流しちゃってるよお…っ！♡
おほっ♡ほひっ♡ほおおっ！♡

(再び教室に生徒が入ってくる)
(太ももコキ停止)

(以降しばらく囁き)
…あ、ああ、また誰か、教室に入ってきたのか…♡
…腰振り、止めちゃうの？♡
…う、うん、そ、そうだよ、腰振り止めないと、バレちゃうもんね♡
我慢…我慢、しないと…ッ♡
ん、ふううッ…！♡

(放屁)

あ、あは♡ごめんね♡
オナラ、後輩くんのチンポに、ぶっかけちゃった…♡
そ、そうだよ、バレちゃうかも、しれないもんね…！♡
で、でもお…ッ♡
ふ、んん…ッ！♡

(放屁)

ごめんね♡我慢、できないんだあ♡
後輩くんも、そうなんでしょ…？♡
チンポにオナラぶっかけると、こんなにビクビク跳ねさせてるんだからさ…♡
大丈夫♡きっとバレないよ♡
だから、ね？♡カッコよく、腰振って？♡
僕のおマンコとアナルに、後輩くんのチンポ、思う存分、擦り付けて…？♡

(太ももコキ開始)

んひッ！？♡
あ、あはあ…ッ♡
お、おほおお～…ッ♡
す、すごい…っ♡

バレるかバレないかの瀬戸際で味わう、快感…ッ♡

さ、最高に、興奮するよ…っ♡

ふふ、ふふふ…ッ♡

あは♡後輩くん、気持ちいい？♡

ほら、もっと腰振って…？♡

んひい…っ♡ おほっ、ほひっ♡

す、すごお…ッ♡

こ、こんな快感味わったの、初めてだよ…ッ！♡

んおおッ♡

(放屁)

んひひ…ッ♡

また、でっかい音立てて、オナラ、出しちゃったあ…ッ♡

ほおらっ…後輩くんのおちんぽにっ、オナラぶっかけてえっ、いっぱい臭くしてあげるからね…？♡

後輩くんチンポを僕のオナラでマーキングしてっ、ニオイ、染み付けてやるう…ッ！♡

(放屁)

んひ…っ、おひいい～…♡

(不審に思った生徒がロッカーを怪しむ)

あ、あああッ♡

あの生徒、こっち見てる…ッ♡

や、ヤバイ、今度こそ、本当にバレちゃう、かもお…ッ♡

…ふふ、んふふ♡

ね、ねえっ、後輩くん…♡

もう、バレても、いいんじゃない…？♡

どうせバレちゃうなら…♡

それなら、もういっそ思いっきり気持ちいいの、味わっちゃおう？♡

二人で、思いっきり腰振って、イコ？♡

ね？♡ねっ？♡

いいでしょっ？♡

一緒に、イこ…？♡

(聞き手、激しく腰を振り始める)

ん、おッ…ほおおお…っ！♡

あ、あぁ♡いい、イイよおお～…ッ♡

後輩くんちんぽが僕のオマンコとアナル擦る度ッ、太ももに腰ぶつけられる度にい…ッ♡

気持ちいいのが、頭まで駆け上がってくるう…ッ♡

んひひッ、んおおッ！♡

あは♡後輩くんの腰振り激しすぎだよお…♡

後輩くんも、イきたいんだね？♡

そうなんだね？♡

それじゃっ、イこっ、イこうっ、一緒につ、イこうっ…！♡

ん、おおッ！♡

(放屁)

んひ♡

ね、さっきからオナラのニオイ、濃くなってると思わない？♡

僕もさ、もうそろそろ、限界なんだぁ…っ♡

オナラぶっこきまくって、ぶっといウンコ♡

奥から降りてきてるんだよねえ…♡

ね、コレ、ぶちまけちゃってもいい？♡

後輩くんのチンポ、僕の便器にしちゃっても、いい…っ？♡

いいでしょっ、ねっ…！？♡

(腰振り加速)

あッ！♡んおおお～…ッ♡

んひひひい…ッ♡

いい、お返事いつ♡

それじゃ、イこっ♡

一緒につ♡アクメキメちゃおっ？♡

あはッ、あはあ～ッ！♡

(放屁)

んひひい…ッ♡

(生徒がロッカーに近づく)

あ♡

あの子、こっちに来てるね♡

そりゃそうか♡これだけ激しくしたら、バレちゃうに決まってるよね♡

でももう、我慢なんて、できないよ…ッ！♡

イクっ、イクよっ、後輩くんっ♡

一緒に、落ちるところまで、落ちておくれえ…ッ♡

ん、おゝッ♡イっぐ…ッ！♡

後輩くんチンポにクソひり出してッ、イっぐううう～～…ッッ！！♡

(囁きここまで)

(二人同時に絶頂)

(脱糞)

んおおおおおおおおおおお～～ッッ♡

おひッ♡おひいいいいいい～～…ッッ！！♡

あ、あああ…ッ♡

んおおおっ、んッ♡んひ♡ひいい…ッ♡

すご、おお…っ！♡

あは…ああ…っ！♡

後輩くんッ、チンポにウンコぶっかけられて、白いの大量にびゅるびゅるしてるねえっ♡

可愛いつ♡それでこそっ、僕が見込んだ変態だよお…ッ♡

んっ、あむっ♡

(獣のように激しく深いキス、15秒ほど)

(脱糞終了)

(生徒、異臭と獣のようなミツルギの喘ぎ声に怖気付いて教室から逃げ出す)

ふは…♡

お、おや…？♡

あの子、結局ロッカーを開けずに、教室から出ていっちゃったね…♡

これは…バレなかった、ってことかな？♡

ふふ…助かったね…♡

でも、どうして出ていっちゃったんだろ…？

後輩くん、分かるかい？

…えっ？

…ふふ、あはははっ！♡

そっか♡

そっかそっか♡

そりゃ、そうだよ♡

突然ロッカーから獣みたいな喘ぎ声が聞こえて、こんな強烈なニオイがすれば、怖がってそりゃ逃げちゃうよね♡

…ん？♡

おーい、後輩くん？♡

僕のウンコの熱とニオイがあまりに脳みそを揺さぶってくるのは分かるけど、気持ちいいのに身を任せて、僕に抱きついて脱力しないでおくれよ♡

また、いつ生徒がやって来るか分からないんだ♡

早めに後片付けしないと、異臭騒ぎで大変なことになっちゃうよ♡

それとも、後輩くんは僕一人に、このたっぷりザーメンがこびりついたウンコの後片付けをさせるつもりかい？♡

…ふふふ、お顔真っ赤にしちゃって、可愛いなあ、ホント…♡

…コレ、気持ちよかったね♡

また、しようね、後輩くん…♡

ちゅっ♡

【第四章】イケ女王子様のケツハメ文化祭デート

(文化祭当日、生徒会室にて)

お、来た来た。

んも一、遅いよ後輩くん♡

君の担当は昼までって話だったろ？♡

優しいところは君の長所だけど、僕のお楽しみタイムが減っちゃうじゃないか♡

…うん？

もちろん、今日はとっておきのプレイをするつもりだよ♡

学外から多くの人がやってくる文化祭だもん♡

だから、よりスリリングなプレイを楽しみたいな～って思ってね、特別なオモチャを用意したんだ♡

ふふふっ、じゃ～ん！♡

これ、何か分かるかい？♡

…そう、アナルプラグだ♡

でも、ちょっと変わった形してるよね？♡

先っぽに小さな穴が空いてて、根元が注射器みたいなピストン構造になってる♡

これ、実はね…浣腸器とアナルプラグの、ハイブリッドなんだぁ♡

このリモコン、操作してみて♡

(聞き手、リモコンのスイッチを押す)

…そう、そのボタンでプラグ全体が振動して、同時にピストンが動いて先っぽから空気が出てくる♡

つまり、これをケツ穴に入れてると、そのスイッチ一つで僕に空気浣腸ができるって代物さ♡

ま、教えるより実際に試してみるのが早いだろう♡

ほらほら、後輩くんを待ってる間にケツ穴はほぐしてあるからさ♡

早く、そのプラグを僕のケツ穴に突っ込んでおくれ♡

(聞き手がミツルギにアナルプラグを挿入する)

ん、おっ！♡

あ、あは…っ♡

ぜ、全部、入ったかな…？♡

ふふ、それじゃ、スイッチ、入れてみて…？♡

(アナルプラグが振動して空気浣腸をする)

んひ…ッ！♡

おほっ、ほお～～ッ！？♡

あは、あはあ～っ♡

こ、これッ！♡すごお…っ！♡

プラグが振動してっ、ケツ穴刺激しながらっ、お腹の中に、どんどん空気入ってくッ♡

あはあ…ッ♡

んひ、ひいい～っ♡

んおゝ…ッ！♡あ、あああ…っ！？♡

(放屁)

あひッ！？♡

(聞き手、スイッチを切る)

…ふーッ♡ふーッ♡

これで、このプラグの凄さは分かっただろう？♡

空気浣腸されながらアナル刺激されると、僕、簡単にオナラ出しちゃうんだあ…♡

ね、これ入れたまま、君と文化祭を回りたいな♡

君が好きなタイミングで、スイッチ入れていいからさ♡

…僕のこと、最っ高にドキドキさせて♡

ねっ、いいでしょ…？♡

んふ♡やったあ！♡

ほらっ、そうと決まれば行こ行こっ！♡

早く行かないと、出店の料理売り切れちゃうよっ！♡

ふふふふ…♡

(数十分後)

うーん…色んな出店があって、どれを買おうか悩んじゃうねえ…！♡

あ、後輩くんっ！♡

あっちでクレープ売ってるみたいだよ！♡

一緒に買おうっ！♡

（足早に出店に向かう）

注文、いいかな？

クレープを二つ、あと飲み物も二つお願いしますよ。

ああ、クレープの味？

どんなのがあるのかな、メニューを見せてもらっても…ッ！？♡

（リモコンのスイッチを入れる）

あ、あひ…っ♡

ちょッ、ちょっと後輩く…んひいいッ！♡

（放屁）

（聞き手、スイッチを切る）

はふう…ッ♡

えっ！？

な、なにか変な音がした！？

き、気のせいじゃないかな～…あはは…♡

（小声で）

…はあ、はあ…♡

こ、こんな…目の前に、人がいるのにい…ッ♡

んもお、後輩くんってば…き、最高、だよ…っ♡

（小声ここまで）

それでえっと、なんだっけ…あっ、そ、そうだね、クレープの味だったね！

えっと、両方とも、チョコとクリームをやつにしようかな、あは、あはは…っ！♡

…えっ、も、もう、できたのかい？

凄い、さすがだね。

うん、受け取る、よっ！？♡

（聞き手、スイッチを入れる）

んひ…っ！♡
んっ！？♡あ、あはあ…ッ♡
い、いや？♡なんでもないよ…？♡
お会計は、これで足りるかい…？♡
ん、んんッ！？♡

(放屁)

はひ…ッ♡
あ、ああ…ありがと…っ♡
それじゃ、またね…？♡

(足早にその場を去る)
(聞き手、スイッチを切る)

んもお、後輩くんったら…ッ♡
クレープ屋の子に、絶対僕のオナラ聞かれちゃったよ…♡
逃げるみたいに走ってきたけど、絶対怪しまれてるよ？♡アレ♡
でも、ありがとう♡すごく興奮したよ♡んふふ…♡
っと、おや？♡

(ファンクラブの女子たちがミツルギに駆け寄ってくる)

あー…しまった、ファンクラブの子たちに見つかっちゃったか…。
デートの最中だけど、彼女たちの相手をしないと後々面倒なことになりそうだ。
すまないね、後輩くん、クレープでも食べて、少し待っていておくれ。

(ミツルギ、聞き手から離れる)

やぁ君たち、文化祭は楽しめているかな？
うんうん、それなら良かったよ。
君たちは、今年もまた僕の写真集を配布しているのかい？
ふふ、そうかい♡
ありがとう。君たちの愛はしっかりと受け取っている、よッ！？♡

(聞き手、スイッチを入れる)

んひッ！？♡ あ、あはあ…ッ♡

(小声)

後輩くんっ！♡な、何やってるのさあ…っ！♡

い、今僕はファンクラブの子たちと話してる最中なのに…ッ♡

(小声ここまで)

(聞き手、スイッチを切る)

はー…♡はー…♡

あは…あはは…♡

な、なんでもないよ？♡

あ、え？♡か、彼かい？♡

べ、別に、そういう関係な訳じゃないよ♡

た、ただ、生徒会として、トラブルが起きてないか一緒にチェックして回ってただけ、でえッ！？♡

(聞き手、スイッチを入れる)

(放屁)

んぐ…ふおおおッ！？♡

…はあッ、はあッ♡

(聞き手、スイッチを切る)

あ、あは…♡

にゃ、なにか、大きな音がしたね♡

それに、変なニオイもする…ッ♡

もしかしたら、ガス漏れでも起きてるのかもしれないね…♡

だ、だから僕は、出店に何かトラブルがないか、チェックしに行かないと…ッ！♡

そ、それじゃ、文化祭、楽しんでね…っ！♡

(聞き手の元へ駆け出す)

はあ…っ♡はあ…っ♡

後輩くんの、ばかぁ…♡

あんな大勢の目の前で、僕にオナラさせるなんて…っ♡

バレたらどうするつもりなんだ…ッ、責任とってくれるのかい…？♡

まったく…僕が望むこと、的確にやってくれるんだから…♡

(小声)

…後輩くんと出会えてよかったなって、本当に、そう思うよ…♡

(小声ここまで)

…ううん、なんでもない♡

さ、まだまだ文化祭は終わらないよ！♡

次は各クラスの出し物でも見に行こうか！♡

もちろん、途中でスイッチ入れてくれても、構わないよ♡

んふふふふ…ッ♡

(数時間後)

ふう、これで三クラス目のお化け屋敷も終わりかな♡

ふふ…君ってば意外と怖がりなんだねえ…♡

スイッチ入れるのすっかり忘れて、最後のお化け屋敷なんて、僕の腕にしがみついていたじゃないか♡

…ま、そんなところも愛おしく感じちゃうけどね♡

…うん？♡

嘘じゃないよ、本当さ♡

なあんて言っても、普段の僕のキザな姿を見てる君には、本当だと思ってもらえないんだろうけど♡

…ん？

おや、あんな子もうちの文化祭に来るんだねえ。

ほら、あそこ。

この辺で有名な不良高校の子だろう？

トラブル起こさないといいんだけど…って、あーあ、言わんこっちゃない…。

(ミツルギ、不良に歩み寄る)

ねえ君。

あんまり騒ぎを起こされると困るんだけど。
…僕は、この学校の生徒会長さ。
せっかくの文化祭だ、全員楽しく終わりたい。
…何が言いたいのか、分かるだろう？
…は？
なら、俺とデートしろって…。
ぷっ、あはははっ！
そんなこと、するわけないだろう、君みたいなやつと。
お断り。絶対に嫌だね。
…なんだい？
言っておくけど、暴力をチラつかせて自分の思い通りになると思わないことだ。
最後の警告だよ。これ以上騒ぎを起こすなら…ッ！？

(不良、怒って殴りかかる)
(聞き手、咄嗟にミツルギを守って殴られる)

っ、後輩くんっ！ 大丈夫かい！？
なんて馬鹿なことを…僕を、かばうなんて…！
…ねえ、君。
僕の大切な後輩に、手を上げたんだ…。
タダで済むと、思うなよ？

(ミツルギ、不良をボコボコにする)

ふう…これでよし。
もう二度と、うちの敷居をまたぐなよ。
ほら、とっとと出ていけ、野蛮人め。

(不良、逃げるように立ち去る)

…さて、と。
後輩くん？
どうしてあんなことをしたんだい？
怒ってるんですかって、ああ、怒ってるよ。
僕なんかのために、あんな不良に殴られてさ。
…王子様だなんて言われてるこの僕が、不覚にもときめいちゃったじゃないか。

まったくもう…本当に、困った後輩くんだ♡
…ちょっと、こっち来て？
いいから、こっち！

(人気のない倉庫に向かう)

…うん、ここなら、いいかな♡
…ねえ、後輩くん♡
僕、もう我慢の限界だ♡
あんなかっていいところ見せられたら、もう僕の頭の中は、君のことでいっぱいだ…♡
だから…ね、ご褒美、あげようか…？♡
僕のこと、守ってくれた、ご褒美…♡
…んふふ♡
今日はあ、特別に♡

(スカートをたくし上げて尻肉を晒す)

僕の…ケツマンコ♡使わせてあげる…っ♡
んふふ♡
ほら、アナルプラグ、抜いておくれ♡
んっ、んんん…ッ♡

(聞き手、アナルプラグ引き抜く)

んふふ♡ほらあ、見えるかい？♡
僕のケツマンコ、ヒクヒクしてるだろう…？♡
今からここに、君のおちんぼぶち込まれちゃうんだって想像したら…んんッ♡

(放屁)

ほひい…ッ♡ケツ穴、疼いてたまらないんだ…♡
ね、お願い♡もう限界だよ♡
早くう…♡早く挿れてっ♡
後輩くんのおちんぼ、頂戴…ッ！♡
あはっ…そ、そう、そうだよっ♡
入口に、おちんぼの先端あてがって、そのまま…ッ！♡

(聞き手がアナルに挿入する)

んほおおお～～～…ッ♡

ぎ、きたあ…っ♡後輩くんの、おちんぽお…♡

おゝッ♡ほおッ♡んぎいい～…っ♡

想像してたよりも、数倍、きもちいい…っ♡

ほうら後輩くん♡

僕のケツマンコの具合はどうだい？♡

んふふ、聞くまでもないみたいだね…♡

僕のケツマンコ、後輩くんのおちんぽ離したくないよ～ってぎゅうぎゅうに締め付けて♡

必死にしゃぶりついてくるもんねえ♡

ほおら♡もっとも一っと気持ちよくなりたいだろう？♡

それなら、腰振って♡

下手くそでも大丈夫だから、僕に後ろから抱きついて、ぱん、ぱん、ってえ…ッ！？♡

(ピストン開始)

んひッ！？♡

ちょ、ちょっとおッ！♡

あゝおゝおお～…ッ！♡

おほッ♡ほおッ♡んぎひひひひひ～…ッ♡

い、いきなりはげしっ、激しいよ後輩くんっ♡

そんなのされたら僕すぐイっちゃうからあ…っ♡

もっと優し、くっ、んぎいいっ！？♡

ぼっ…僕のケツマンコッ、壊れちゃうよお…ッ！♡

あ、あああ～っ♡にや、にやんだこれえ…？♡

今までお尻に挿れたどのおもちゃよりきもちいいっ♡

太さも硬さもっ、おもちゃに劣るはずなのにっ♡

な、なんでえ…っ？♡

も、もしかして…後輩くんだから…？♡

後輩くんのおちんぽだから、こんなに気持ちいいのかなあ…？♡

んひひひ…ッ♡

(ピストン加速)

ほぎっ！？♡ちょっ、ちょっと後輩くんっ！♡

またっ、激しくう…っ！♡

あ、あひいいいいい〜〜…ッ！♡

んおゝ おッ♡ほお〜っ♡

おゝ ほおお〜〜…ッ♡

おゝ ッ、んおおおおお〜〜…ッ！！♡

(放屁)

(絶頂)

(ピストン一時停止)

ほひっ、ほひい…っ♡

んひ、あへえ…♡

んもお、後輩くんったらあ…っ♡

僕のことイカせるの、上手すぎるよ…っ♡

んふふ、でもお、まだ満足してないだろう？♡

だってえ、後輩くんのおちんぼはまだまだガチガチだもの♡

ね、今度はあ…僕のケツマンコにい…種付けプレス♡してみない…？♡

僕のこと床に押し倒して、上からおちんぼ、ずぼずぼっ、てえ…っ♡

おまんこだったら確実に妊娠しちゃうような、種付けプレス…ッ♡

んふふ…♡ケツ穴なら妊娠しないから、大丈夫だよ♡

ね…？♡ ほおら♡早くう…っ♡

(聞き手がミツルギを押し倒す)

きゃん♡

んふふ…♡後輩くんったらあ…そんなキラキラした目で僕のこと見てえ…ッ♡

そんなにがつつかなくてもお…僕のケツマンコは逃げないよお〜っ♡

だから、しっかり狙いを定めて…思いっきり、僕のケツマンコ、ぶち犯して♡

(種付けピストン開始)

あゝ ひッ！？♡

おゝ ほおおお〜〜…ッ！！♡

後輩くんのおちんぼがッ、僕のケツマンコの奥まで、ずっぽりいい〜ッ！♡

あぎいっ！？♡ま、待ってえっ！♡
そんな激しくしたらまたすぐイっちゃうからあ…っ！♡
ンオおおお～っ！♡
んぎっ、イぐ…っ！♡
イクイぐうううう～…っ！！♡

(絶頂)

(ピストン加速)

んおゝッ！？♡あ、ああああ…っ？♡
ちょ、ちょっと後輩くん…ッ！♡
い、今いったばかりだからあっ！♡
おちんぽズボズボするのやめてえっ！♡

(ピストン停止)

ば、ばかっ！♡やめないでっ！♡
やめてって言うのは、やめないでってことだよ♡
僕が何言おうと、君は思いっきり腰振ればいいんだッ♡

(ピストン再開)

んひッ！？♡お、おおおお～っ！♡
おゝほっ、ほお～っ！♡い、いいっ！♡
これ好きいっ！♡後輩くんの本気ピストン…ッ♡
僕のケツマンコに種付けプレスでどちゅどちゅされるの気持ちいいよおっ！♡
オナホみたいに雑に使われるの気持ちいい…っ♡もっと、もっと激しくう…ッ！♡
僕のケツオナホ、めちゃくちゃにしてえ～っ！♡

(ピストン加速)

あゝひッ！？♡お、おおおお～ッ！♡
んぎっ！♡いぐっ！♡またイクうううう～…ッ！！♡

(絶頂)

ほひいいい〜ッ！♡

後輩くんのピストンしゅごすぎるよおおお〜っ！♡

めしゅっ、メスになるっ♡ 後輩くんちんぽに完全屈服して、王子様からメスになるう…
ッ！♡

んおゝッ♡おゝほおっ♡

(便意)

ぐおおッ！？♡

お、おにゃかのなかつ、後輩くんに犯されてっ、ぐるっ、ぐるうっ♡

ウンコッ、出ちゃうよおおッ♡

後輩くんッ、ね、思いっきり、キスして…っ！♡

んおゝお〜〜ッ！！♡

(放屁)

あむっ、れろれろ…ッ！♡

(喘ぎ声混じりの深いキス 15 秒ほど)

ふは…ッ♡んふ、んふうう〜っ♡

ぐ、ぐるっ、ぐるうう…っ♡

後輩くん、僕、ウンコ出ちゃいそう…っ！♡

ケツ穴犯されてッ、ウンコ漏らしちゃいそうだぁッ♡

ね、お願い…っ♡

僕のケツマンコにい、後輩くんのおちんぽミルクいっぱい出してえッ♡

ウンコと後輩くん汁でお腹いっぱいにしてえ…ッ！♡

そしたら僕ッ、全部ぶちまけるからっ！♡

ザーメンもウンコもっ、クソ穴からひり出しながらイクからぁッ！♡

だから、お願いっ、僕のケツマンコにい、後輩くんの、ちょうだい…ッ！！♡

(ピストン加速)

おほッ！？♡んひひひひひ〜〜ッ！！♡

きたきたきたきたぁっ！♡

本気ぴしゅとんきたぁっ！♡

んぎっ、こんなの、簡単にイカされるっ、んッ、おゝ お〜〜〜…ッ！！♡
で、でも我慢ッ、我慢んんッ♡
後輩くんと一緒にッ、一緒にイきたい、からあッ♡
んぎいいい〜…っ！！♡
うおおお…ッ！♡
ちっ、チンポ膨らんだッ！♡
出るっ、出るんだね後輩くんッ！♡
いいよっ、僕と一緒にイこうっ！♡
だから、最後に思いっきり、腰を打ち付けておくれええッ！♡
ぐオおおオオッッ！！♡
イグイグイグイグイグイグイグッ！！♡
イッッッ、ぐううううう〜…ッ！♡

(絶頂)

(射精)

んおおお〜〜〜…ッ！♡
で、でてるう、後輩くんのザーメンが、僕のケツマンコにい…ッ！♡
おゝ ほおおお〜…ッ！？♡
ほひっ、す、すご…っ！♡
と、止まらな、いいっ！？♡
んおおおオオ〜〜〜…ッ♡
はあ…っ♡はあ…っ♡
ん、おゝ お…ッ♡

(放屁)

あひ…っ♡あへえ…♡
後輩くんのザーメンでお腹いっぱいだよお…っ♡ んふふ、僕のケツマンコにたっくさん出して
くれてありがとうね、後輩くん…ッ♡
でもお…ごめんね♡

(便意)

これから、まとめて全部、ぶちまけちゃうから…っ♡
んふ、さあて♡後輩くん♡

僕の脱糞ショー、しっかり目に焼き付けてね？♡んふふ…ッ♡

(放屁)

はあ…っ♡はあ…っ♡

あは…♡ほおら、一緒にカウントダウンしておくれ♡

ほおら、いくよおお…ッ！♡

さあん…にいいい…いいいち…♡

ぜえ～ろおおッッ！？♡

(脱糞)

あゝ ひッ！？♡んおお～…ッ！♡

んぎっ、ほおお～っ！♡

でるっ、ウンコでりゅううう～…ッ！♡

ンオオオオ～…ッッ！！♡

あゝ ひ…っ、ひいい…っ！♡

噴水みたいに放物線描いて、ウンコがケツ穴から噴き出してるう…っ！♡

あひいいッ！？♡んひィイ～…ッッ！！♡

ほおゝ おおお～…ッ！！♡

おほっ、ほひいいいい～…ッ♡

んお…っ♡あ、あれえ？♡後輩くん…？♡

あんなに出したのに…チンポ♡またガチガチにしてるね♡

ふふ、後輩くんったら…僕のウンコ、本当に大好きなんだねえ…？♡

んふふふふ…♡

あゝ ひ…っ！？♡

ふうう～…ッ♡ほひいい～…ッ！♡

(脱糞終了)

はあ…はあ…はあ…♡

んふふ…♡

最高の文化祭デート、だったね…♡

ほら、おいで…♡

キス、しよう…？♡

ん、ちゅ…っ♡

(ゆったりとした深いキス 15 秒ほど)

【第五章】イケ女王子様の特製チョコレート

(ミツルギ、大量のチョコを紙袋に入れて歩く)

いやあ、手伝ってもらってすまないね、後輩くん。

ん？

ああ、毎年バレンタインになると、この有様さ。

ファンクラブの子たちが僕にチョコをくれるのは嬉しいんだけど、さすがに紙袋四つ分にもなると、持って帰るのが大変だね。

でも今年は、後輩くんがいるから大助かりさ。

僕の家までチョコを運ぶお手伝い…まさか、こんなにすんなりお願いを聞いてくれるとは思わなかったから、とっても嬉しいよ♡

やっぱり、後輩くんは優しいね♡

でも、本当に良かったのかい？

貴重な放課後を、僕のために使ったりしてさ。

だって、今日はバレンタインなんだよ？

君にチョコを渡したいって思ってる女子も、いたんじゃないの？

…そんなの、いるわけない？

(小声)

…ふうん、みんな、見る目ないんだなあ。

(小声ここまで)

ああいや、なんでもないよ♡

お、もうそろそろ着くよ！

そう、この屋敷が、僕の家さ。

…うん？

どうしたのさ、驚いた顔して。

まさかこんな大きな屋敷に住んでるとは、思ってたかった？

あれ？ 後輩くん、知らないの？

僕、財閥当主の一人娘なんだよ？

僕が学校で『王子様』って呼ばれてるのも、それが理由の一つ。

まあでも、普通よりちょーっと大きい家ってだけだから、緊張する必要は無いからね。

…ん？

おっと、どうして帰ろうとしてるのさ。

手伝ってくれたお礼に、お茶くらいご馳走させておくれよ。

ほら、入って入って！

今日は両親とも仕事で帰ってこないから、遠慮しないでさ！

(ドアが開く音)

さ、どうぞどうぞ♡

あ、靴は脱がなくて大丈夫だからね。

僕の部屋は二階だから、ほら、ついてきて♡

(ミツルギの部屋に入る)

…はい、ここだよ～！

んふ♡後輩くん、緊張してる？♡

キョロキョロ部屋を観察してるの、バレバレだよ♡

でも、あんまり見られると恥ずかしいから、ほどほどにしてね？♡

さ、後輩くんはそのソファに座って♡

僕はお茶を淹れてくるから♡

あ、ちなみに下着はその棚の一番上に入ってるから、気になるなら見ててもいいよ？♡

…ぷっ、あははっ♡顔真っ赤！♡

冗談だよ、冗談♡だからそんなに怒らないで♡

んも一、後輩くんったら、本当に可愛いなあ…♡

それじゃ、お茶淹れてくるから、大人しく待っててね？♡

(数分後)

おまたせ♡

はい、どうぞ、召し上がれ♡

(ミツルギ、カップを置く)

お味は…いかがかな？

ふふ、それは良かった♡

それじゃ、僕もいただくかな…♡

んっ…♡

(ミツルギ、媚薬入りのお茶を飲む)

ぷは…♡

うん、これなら、わかんないね♡

さてと…それじゃあ、そろそろいい頃合いだし、本題に入ろうか♡

実は僕ね…君にどうしてもあげたい物があるんだあ…♡

君を無理矢理家に上げたのも、それが理由♡

…ね、後輩くん♡

これ…受け取ってくれるかい…？♡

(チョコを取り出す)

そ、そう、バレンタインチョコだよ…♡

…義理ですかって、あ、あのなあ！♡

…本命に決まってるじゃないか、バカ…言わせないでおくれよ…♡

…ね、後輩くん♡

僕…君の事が、好きなんだ…♡

(ミツルギ、聞き手を押し倒す)

ご、ごめん、ね…もう、我慢できない…ッ♡

実は、さっき後輩くんに出したお茶の中に、媚薬を混ぜておいたんだ♡

僕の想いが本物だって、後輩くんにはわかってもらいたくって…♡

ね、後輩くんは何もしなくていいからさ…♡

僕がぜーんぶ、やってあげる♡

だから…僕の体でたくさん気持ちよくなったら…告白のお返事、聞かせて欲しいな…♡

…んふふ♡準備万端だね♡

チンポ♡ビンビンになってるじゃないか♡

…僕のお尻は、何回も使ってもらってると思うけど…今日は、コッチ…♡

(ミツルギ、秘部を見せつける)

オマンコで、君のチンポを搾り尽くしてあげる♡

後輩くん、こっちの穴はずーっとお預けだったもんね♡

でも、それは僕もおんなじさ♡

本当に大好きな人に、こっちの初めては捧げたかった…♡

だから、オモチャもこっちの穴にはほとんど入れてないし、処女膜も新品さ♡

だから今日は、後輩くん…僕の初めてを捧げさせてもらうね…？♡

(ミツルギが聞き手を脱がせる)

…んふふ、あは♡

すごいね、ビンッビンじゃないか♡

もうこんなにガチガチにしてえ…そんなに僕のオマンコ犯したいの？♡

ふふ、嬉しいなあ…♡

それじゃあ、後輩くんももう限界みたいだし♡

しよっか…セックス♡

…すー…はー…♡

ん、オマンコの入り口に、後輩くんのを、あてがって…♡

よ、よおし…それじゃあ、挿入れるよ…？♡

んっ…♡

(挿入)

んお…ッ、は、入って、きたあ…ッ♡

あゝっ、ひいい〜っ♡お、おっきい…♡

こ、腰、沈められ、ないい…っ♡んひいっ！♡

い、勢いつけないと、入りそうにない、かもお…ッ♡

ごくっ…や、やるぞお…♡

勇気を、振り絞ってえ…ッ♡

せー、のオおッ！？♡

ンオオオオッ！？♡

お、おほお〜ッ！？♡

あゝ ひっ、あひいいッ！？♡

(絶頂)

ご、ごめ、ごめんねえ…♡

オマンコびっくりして、ちょっとイッちゃった…♡

あ…んふふ♡

処女膜、破られちゃったみたいだね♡

つう…って、血、出てる…♡

…でも、不思議と…痛いより、気持ちいいのが…勝ってる…♡

媚薬の、おかげかな？♡

それとも、後輩くんのが、大好きだから…？♡んふふ…♡

ね、後輩くん♡

僕、腰振っても、いいかな…？♡

ゆっくり、慣らしながらだけど…♡

…ん、ありがとう…♡

それじゃあ、いくよ…？♡

(ゆっくりピストン開始)

んっ、ああっ♡

はああ〜っ♡

な、なにこれえ…ッ！？♡

あはっ、んひィッ！♡

こ、こりえ、まじゅい…ッ♡

メスに、なりゅッ♡

僕、後輩くん専用の、メスになっひゃううううっ！♡

あゝひいいい〜っ♡き、気持ちいい…ッ！♡

オマンコ気持ちいいよおおお〜ッ！♡

腰っ、振る度につ、オマンコも胸も、キュンキュンするううう〜っ！♡

(ピストン加速)

んあああッ、すきっ、すきっ♡

大好きっ、後輩くんっ！♡

最初はっ、ただの、利害の一致だったっ、けどおっ♡

君と過ごす度につ、君の色んな所を知ってっ♡

どんどん、好きになっていったんだあっ！♡

僕に発情する姿はっ、顔を真っ赤にしながら必死に腰振っててっ、めちゃくちゃ可愛いしッ♡

僕が何かをお願いしても、絶対に断らないしっ♡

それに、それに…ッ♡

文化祭の時、僕を守ってくれた…ッ♡

僕のこと、女の子として見てくれて…ッ♡

それがすっごく、すっごく嬉しかったんだっ！♡

その時っ、僕気づいたんだっ♡

ああ、僕は後輩くんのこと、好きになっちゃったんだなあ…♡

恋、しちゃったんだなあ…って♡

んふふ…♡

…ねえ、後輩くん♡

運命ってあるんだなあって、僕、そう思うよ♡

君の性癖と僕の性癖が、こんなにもピッタリだったのも…きっと、こうなることが運命で決まってたからだろうね♡

んおおッ！？♡

(放屁)

はひっ、ふふっ♡

内側から押されて、オナラ、出ちゃった♡

…んふふ♡

後輩くん、僕のオナラで興奮してくれたんだね？♡

だってえ…さっきより君のおチンポ、ビンッビンになってるもん♡

(ピストン一時停止)

(以降囁き)

…ね、後輩くん♡

実は今、僕のお腹にとっても大きなウンコがあるって言ったら、興奮するかい？♡

んふふ…♡

後輩くん、さっきあげたバレンタインチョコ…箱開けて、中身、見てみて？♡

(囁きここまで)

(聞き手、箱を開ける)

…んふふ♡

箱の中、空っぽだよね？♡

実はね、そこに入れるチョコは、まだ作ってる最中なんだ♡

一週間かけてじっくり作った特製チョコレート♡

どこにあるか、分かるかな？♡

…んふ♡

…大正解♡

僕の、お腹の中さ♡

あん♡君のおチンポ、またビキビキってなったよ？♡

想像しちゃったかな？♡

僕が、ぶっとくてながあい特大チョコ、君にプレゼントする姿♡

…欲しいかい？♡

僕の…特製チョコ♡

ならさ、君の方からも、腰を振っておくれ♡

僕のおまんこ、下から思いっきり、突きあげて♡

それで、僕のオマンコに、真っ白な君のホワイトチョコレート、ぶちまけてくれたら…♡

僕も、君が持つてるその空き箱に、僕のぶっといチョコを、プレゼントしてあ・げ・るうお
ッ！？♡

(ピストン再開)

(放屁)

ほひっ！？♡んおおッ♡

あひっ、ひううゝ〜っ♡

本気ピストンきたあッ♡

手加減無し突き上げぴしゅとんっ、んおゝッ♡

子宮っ、潰れりゅっ♡

あへああ〜っ♡

オマンコっ、もうずっとキュンキュンしてるよおおっ！♡

おほっ、ほひっ、ひぎいっ！♡

いっ、イグッ！♡雑魚メスマンコイクウウッ！！♡

(絶頂)

(放屁)

うおッ、おおおお〜…ッ♡

後輩くんッ、しゅきっ♡

だいすきだよおお…ッ！♡

あへええ〜…ッ♡んお、おお〜っ…♡

(深いキス 20 秒ほど)

ぷはっ♡はああ〜っ♡

す、すごお…ッ♡

キスしながらだと、お腹の奥、じんじんしゅるう…♡
んふふ♡ねえ、後輩くん…♡
もうそろそろ、限界なんじゃないの？♡
んあっ、さ、さっきからチンポビクビク震えてるの、分かるよ？♡
いいよお…このまま、僕の子宮の中に、ザーメンぶちまけて…？♡
僕もまた、イキそうだからさ…♡
一緒に、気持ちよくなろう…？♡

(ピストン加速)

あゝ ひッ！？いひっ！♡
あへっ、おほっ、ほおおお〜〜ッ！♡
あゝ へあっ！♡こ、こりえヤバっ！♡
んひいっ！♡
後輩くんッ、ほらきしゅっ、キスしてえっ！♡

(喘ぎ声混じりの深いキス 15 秒ほど)

うおおお〜〜ッ！♡
イグっ、イグうううゝ う〜〜ッ！！♡
ヤバいの来るっ♡ガチイキアクメっ、きひやううう〜〜ッ！！♡
あへっ、んひッ！♡
後輩くんっ、準備は、いいかなあ？♡
ほら箱っ、その箱持ってっ♡
僕のケツ穴の前で、構えててよッ♡
ちゃ〜んと全部受け止めてくれないとッ、ダメだからねえっ♡
んひィッ！♡

(激しい便意)

おおッ、降りてきたっ！♡
一週間分の、極太ウンコおッ！♡
後輩くんもお…も、もう限界なんだねっ？♡
いいよっ、きてえっ！♡
僕のマンコにい…後輩くんのホワイトチョコレート、ぶちまけてえッ！！♡
ば、僕もイぐっ、イぐうッ！♡

極太ウンコチョコぶちまけてイぐからぁッ！！♡

うおおッ、きたきたきたきたッ！♡

い、イググ！♡イグイグイグウッ！♡

後輩くんの特濃ザーメン受け止めてっ、イッ…ぐうううう～～ッッ！！♡

(絶頂)

(射精)

(脱糞)

ほひいいい～ッ！♡

あゝへぁっ！♡

おほっ、ほおおお～～ッ！！♡

うおおおお～～ッ！？♡

すんごい量出てるしッ、出されてるうッ♡

あゝへええ～～…ッ！♡

クソひりながらっ、マンコ種付けッ、たまんないいい～～ッ！！♡

これすきっ、しゅきいいいい～～ッッ！！♡

はひィィ～…♡

んふうう…♡ふひっ、ふひひい…ッ♡

(深いキス 20 秒ほど)

ふはッ♡

あはっ、ふふっ♡

箱、小さすぎたね…♡

それとも、僕のウンコが、多すぎたのかな…？♡

あっさり箱を満杯にして、ボトボトこぼれちゃってるよ♡んふふ…♡

ん、おおッ！！♡

(脱糞終了)

(放屁)

はふう…ッ♡

僕も後輩くんも、ゼーンぶ出し切っちゃったね…♡

あは、気持ちよかった？♡

僕も…すっごく気持ちよかったよ、後輩くん…っ♡

んっ、んん…ッ♡

(ペニス引き抜く)

んお…ッ♡

はーッ…はーッ…♡

さあ、最後のトッピング、だよ♡

ほら、後輩くん、その箱、貸して？♡

んふふ…♡

山盛りウンコの上に、後輩くんがたっぷり出してくれたザーメンを、オマンコから垂らして
え…♡

んふふふ…っ♡

あはあ…♡

かんせーい♡

僕特製、スペシャルバレンタインチョコうんこ♡

見て見て♡

僕の出したウンコと後輩くんのザーメンの香りが混じりあって、すごいニオイになっちゃ
ってる♡

ザーメンがウンコの隙間に入り込んでいくのもエッチだね♡あははは…ッ♡

ね、後輩くん？♡

…最初に、言ったよね？♡

僕の体でたくさん気持ちよくなったら…告白のお返事、聞かせて欲しいって…♡

僕と、付き合ってくれるなら…♡

…コレ、受け取って、欲しいな♡

(後輩くんチョコを受け取る)

…んふふ♡ありがとう♡すっごく嬉しい♡

大好きだよ、後輩くん♡

これからも、よろしくね…？♡

(ゆったりとした深いキス 15 秒ほど)